

★JAXA・やまぐち宇宙教育推進事業★

★活動レポート③★

山口県教育庁
社会教育・文化財課
2019年09月07日

9月7日(土)、宇部市にある山口県産業技術センターに会場を移して、「宇宙の学校～第2回～」を開催し、46組135人の家族が参加されました。今年度2回目ということで、会場内は和やかな雰囲気に入れ、講師である「子ども・宇宙・未来の会(通称:KU-MA)」の新田 正博 氏も、笑顔で解説されていました。



☆山口県から宇宙へ飛び立つ「モノづくり」☆

今回の活動は、「手作り望遠鏡をつくろう」と題して、100円ショップで手に入る老眼鏡のレンズと虫眼鏡の組み合わせで本格的な望遠鏡を作り、見え方の仕組みを学びました。また、今回は講師の方のご厚意で、顕微鏡の観察で使うスライドガラス(凹レンズの代わり)を用意していただき、一般的な望遠鏡(ケプラー式:凸レンズと凸レンズの組み合わせ)と地上用望遠鏡(ガリレオ式:凸レンズと凹レンズの組み合わせ)による見え方の違いについても体験できました。これは、全国の「宇宙の学校」でも初めての取組で、山口県オリジナルのプログラムとなったようです。9月13日は「十五夜」でもあり、ぜひ自分たちで作った望遠鏡でクレーターを観察していただき、次回に感想を聞いてみたいところです。

また、産業技術センター内には「JAXA 西日本衛星防災利用研究センター」があり、JAXAのロケットや人工衛星の模型などが展示してあります。JAXA職員の小野 清 氏に説明していただいたことで、山口県と宇宙の関わりについて知っていただく機会にもなりました。ロケットや人工衛星に使われるものが山口県内で作られていることを知って、参加者の皆さんも驚かされていました。



☆参加者の感想より☆

- レンズの組み合わせで簡単に望遠鏡が作れるとは知らなかったの、楽しかったです。
- さかさまになったり、大きくなったり、マジックみたいでした。宇宙を身近に感じられる機会は少ないので、貴重な体験でした。今夜は、夜空を一緒に見たいと思います。
- 子どもたちは、「なぜ?どうして?」の気持ちや、自分でものをつくることが増えました。
- 子どもと一緒に、宇宙のこと・はやぶさのことを話してから、宇宙関係のニュースに興味があくようになりました。
- 子どもが天体望遠鏡に興味をもてたことで、防府市にあるソラールの天体望遠鏡で天体観測をしてみたいと思いました。
- 人工衛星やロケットに使われるものが、山口県内で作られていることを知って、誇らしく思いました。

